

研究課題名

切除不能進行膵癌における conversion surgery の治療成績-後向き観察研究-

研究の意義・目的

切除不能膵癌患者さんの予後の改善は新規薬剤の登場により改善してきましたが、根治や長期生存を得るためには切除術が必要となります。切除不能の状況から化学療法による腫瘍が縮小し、切除可能となった後に切除術を行うことを「conversion surgery」と呼びます。しかし、切除不能膵癌における conversion surgery の有効性と安全性は確立されていないのが現状です。今後、多施設共同試験で conversion surgery の有効性と安全性を検証する必要があると考えており、今回の研究による conversion surgery の実施状況、有効性、および安全性のデータは、その参考資料として大きな意義があります。

本研究では、対象患者さんがどのくらいいるのか、その対象患者さんの特徴、手術の治療効果もしくは合併症はどのくらいだったのか、手術後の治療はなにが行われていたかを診療録(カルテ)で調査します。

研究機関

杏林大学医学部付属病院

方法

本調査研究に対象となる患者さんのカルテを調査し、必要なデータを記録します。

プライバシーの保護と個人情報の取り扱いについて

本研究に関連するすべての情報は、研究の為にだけに用いられ、すべての個人情報は秘密厳守で取り扱います。

研究に必要なデータの記録には、患者さんの氏名・イニシャル・住所等、調査の対象となる患者さんを特定できる情報は一切記載しません。

患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申して出てください。

※この研究に関するお問い合わせは、以下の問い合わせ先へご連絡ください。

〈問い合わせ先〉

研究機関名：杏林大学医学部付属病院 腫瘍内科

住 所：三鷹市新川 6-20-2

電 話：0422-47-5511 (代表)

担当者(研究責任者)：岡野 尚弘